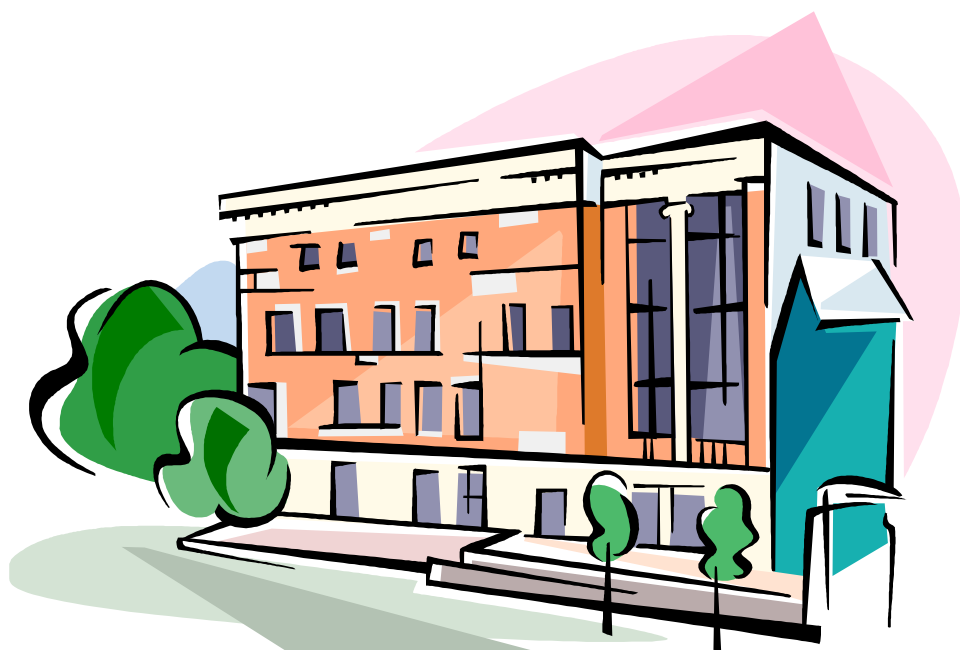


上天草市図書館整備基本構想



平成24年3月
上天草市教育委員会

【 も く じ 】

1	図書館整備基本構想策定の趣旨	1
	（1）図書館整備基本構想策定の背景	
	（2）図書館整備基本構想の位置づけ	
2	上天草市立図書館の現状と課題	1
	（1）職員配置状況	
	（2）施設の基本情報	
	（3）図書の貸出状況の推移	
	（4）他市との比較	
	（5）課題	
3	図書館の基本理念	3
4	図書館の基本方針	3
	（1）利用者の暮らしに役立つ図書館	
	（2）地域の活力の源泉となる図書館	
	（3）利用者が利用しやすい図書館	
5	市立図書館のサービス及び機能	4
6	市立図書館の運営について	5
	（1）利用者が求める資料を自由に気軽に借りられる図書館	
	（2）利用者が参加できる図書館運営	
	（3）職員が能力を最大限に生かせる環境づくり	
7	市立図書館の蔵書について	5
	（1）蔵書数について	
	（2）蔵書内容について	
	（3）蔵書の閲覧方式について	
8	新図書館の建設について	6
	（1）施設形態について	
	（2）スペースについて	
	（3）建設計画について	
9	新設図書館の建設場所について	7
	（1）望ましい立地条件について	
	（2）建設場所の候補地	
10	既存の図書館について	7

1 図書館整備基本構想策定の趣旨

(1) 図書館整備基本構想策定の背景

少子高齢化や情報化、国際化の進展など社会情勢が大きく変化する中で、地域の情報センターである図書館は、「生涯学習拠点としての図書館」という従来の位置づけから発展し「地域を支える情報拠点」としての期待が高まっている（平成18年3月「これからの図書館像（これからの図書館の在り方検討協力者会議）」より）。

上天草市立図書館は、平成16年3月の4町合併に際し、大矢野町、松島町、姫戸町に設置されていた図書館と、龍ヶ岳町に設置されていた公民館図書室を、合併と同時に同列の図書館と位置づけスタートした。その後、松島図書館を中央図書館、残る3館を分館と位置づけ、現在に至っている。

姫戸図書館及び龍ヶ岳図書館は、合併後に施設移転や改修を行ったが、既存施設への移転であったため図書館として十分な施設機能を有していない。大矢野森記念図書館は、施設そのものが高台にあり利便性が悪いことに加え老朽化が著しい。さらには、4館すべてが施設の2階に設置されているにもかかわらず大矢野森記念図書館と姫戸図書館にはエレベータが設置されていない。総じて、上天草市立図書館は、利用者にとって優しい施設とは言い難い。

また、図書館サービスについても、各種統計などを見ると必要と思われるサービスを十分に提供しているとは言い難く、利用者数、貸出数は伸び悩んでいる。

このような中、平成23年に市長の市政マニフェストに総合図書館の開設が掲載されたこともあり、今般、総合的な観点から上天草市立図書館の「あるべき姿」として基本構想を策定することとした。

(2) 図書館整備基本構想の位置づけ

上天草市図書館整備基本構想は、基本理念及び基本方針を設定し、図書館サービスや施設整備について方向性を示すもので、今後の図書館サービスの充実に活かすとともに、基本計画、基本設計、実施設計と具体化する際の基礎資料とする。

2 上天草市立図書館の現状と課題

(1) 職員配置状況

図書館長（公民館長兼務）・・・・・・・・・・1名（嘱託職員）
事務員（公民館兼務）・・・・・・・・・・1名（市職員）
図書館司書・・・・・・・・・・・・・・・・・・9名（嘱託職員）

(2) 施設の基本情報

地区名	図書館名	蔵書数 (H22年度末) (冊)	収蔵 能力 (冊)	図書館 床面積 (㎡)	人口 (H23. 3. 31)	地区に おける 人口割合
大矢野	大矢野森 記念図書館	25,825	20,000	152	15,941	50.5%
松島	中央図書館	46,796	55,000	447	8,140	25.8%
姫戸	姫戸図書館	8,600	11,000	158	2,995	9.5%
龍ヶ岳	龍ヶ岳図書館	6,336	10,000	105	4,465	14.2%
合計		87,557	96,000	861	31,541	

(3) 図書の貸出状況の推移

年度	人口 (3月31日現在)	図書貸出数 ※ (冊)	100人当りの 図書貸出数
H18	33,974	54,899	161
H19	33,319	50,024	150
H20	32,709	58,578	179
H21	32,117	49,037	152
H22	31,541	49,573	157

※団体貸出なども含む貸出冊数

(4) 他市との比較

人口100人当たりの貸出冊数

※平成21年度市町村読書関係実態調査（H22. 3. 31現在）より

順位	1	2	3	4	5	6	7
自治体名	合志市	玉名市	宇城市	阿蘇市	山鹿市	熊本市	菊池市
貸出冊数	1119.1	583.4	520.8	500.8	362.2	358.6	291.2
順位	8	9	10	11	12	13	14
自治体名	八代市	天草市	水俣市	人吉市	荒尾市	宇土市	上天草市
貸出冊数	285.4	269.8	250.0	231.5	211.4	200.6	145.0

※この調査では団体貸出を含まない貸出数で調査を行っている。

(5) 課題

上天草市立図書館（以下図書館という）には、図書館司書の有資格者を配置しているものの、雇用期間が1年の嘱託職員であるため、職員確保の面では必ずしも適切であるとは言えない。

また、4館の蔵書管理体制も一元化出来ず、他市の図書館と比較しても図書館サービス水準は低く、図書の貸出数も横ばい状態となっている。

図書館の利用促進のためには利用者の利便性を図る必要があり、図書館の運営体制の整備及び図書管理システムの導入など設備の充実が求められている。

また、文部科学省が定める「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に鑑み、

サービス対象地域の人口分布と人口構成、面積などを勘案すると、収蔵能力などが適正に確保できていないのが現状である。

このような中、これまで、読み聞かせボランティア団体の協力のもと、学校や図書館などでの読み聞かせや乳幼児健診施設でのブックスタート事業、読書ボランティアの育成など積極的な活動を行ってきた。

しかし、市立図書館における平成21年度の貸出冊数の実績は年間49,037冊で人口100人当たりの貸出冊数は県下14市の中で最下位となっており、いわゆる読書離れが進行している現状である。

一方で、読書マラソン期間中などには貸出数が大幅に増加しているという事実があり、学校との連携やイベントを行うことにより貸出数の増加が見込める。また、市内の児童・生徒を対象に実施したアンケートでは「好きな本が身近にあったら手にしたい」という意見が大部分を占めているので、潜在的な読書人口は多いと考えられる。

3 上天草市立図書館の基本理念

～ためになる、頼りになる、楽しい図書館をめざして～

多様化する市民一人ひとりの生涯学習を支援する“ためになる図書館”として、市民生活の質の向上をサポートする“頼りになる図書館”として、なにより、市民から「つい足を運びたくなる」と言われるような“楽しい図書館”を目指し、利用者本位の図書館サービスを行うことを基本理念とする。

4 図書館の基本方針

(1) 利用者の暮らしに役立つ図書館

利用者の学習や調査・研究を支援するレファレンスサービスを軸に、関係機関とも協力し、世代にあわせた学習の意欲や成果が高められる図書館にする。

(2) 地域の活力の源泉となる図書館

豊かな情報量を確保し、それを活かしたサービスを行い、生涯学習拠点、情報発信拠点、創造発展拠点として「元気なひとづくり、まちづくり」に貢献する図書館にする。

(3) 利用者が利用しやすい図書館

開放的で親しみのある空間をつくり、利用者が迅速なサービスを受けられると同時に、職員にとってもサービスをしやすい図書館にする。

5 市立図書館のサービス及び機能

(1) 図書管理システムとネットワークが構築された図書館

図書管理システムとネットワークを構築し、全館での検索・借入れ・返却を可能にするとともに、インターネットを利用しての蔵書検索など利便性の向上を図る。

また、学校図書館との連携を図り、学校図書資料の有効活用を検討する。

(2) 地域の生活者を支援し心の豊かさと安らぎを提供する図書館

生涯学習の拠点として地域生活に必要なサービスを行うとともに、本との出会いだけでなく市民の交流の場、サロンとしての図書館づくりに努める。

(3) レファレンスサービス（調査・相談業務）の充実した図書館

参考図書のほか、電子資料やインターネットを活用し、利用者の暮らしの中での疑問に応え、調査研究や学習を支援し、利用者の幅広い資料、情報への要求に応える。

(4) 多様なサービスを提供する図書館

多様な価値観が混在する現代社会の中で、図書館に求められる機能も多様化してきている。本来の図書館機能を確保するほか、住民に親しまれる図書館づくりとして、飲食コーナーの設置、おもちゃ図書室の設置、さらには行政サービスの出張所機能を持たせるなど、多様なサービスを提供する図書館づくりを検討する。

(5) 利用者にやさしい図書館

子どもから高齢者、障がい者まですべての利用者が等しくサービスを受けられるように、車椅子に対応した通路の確保、エレベータや手すりの設置、畳やクッションなどを敷いたキッズコーナーの設置など、ユニバーサルデザインを考慮し、安全な使いやすい施設を目指す。

(6) 情報化社会へ対応できる図書館

時代の流れを敏感に察知し、利用者の求めるニーズに対応出来るよう機能の充実に努める。インターネットが利用できパソコン持ち込みも可能とした上で学習などができる場の提供や、利用者が自宅からインターネットを利用して資料検索ができるシステムの整備を図るとともに、ホームページを通じての積極的な情報発信に努める。

(7) 地域の貴重な資料を保存できる図書館

郷土に関する貴重な古文書資料、文学資料や歴史的、文化的価値のある行政文書などを収集、整理、保存し、郷土歴史資料展示スペースを設け閲覧できる環境づくりに努める。

6 市立図書館の運営について

(1) 利用者が求める資料を自由に気軽に借りられる図書館

「知に対するさまざまな要求を持っている利用者」に、資料を提供する」という機能を十分果たすことが図書館設置の大きな目的である。そのためには資料を豊富にそろえる必要があり、今後も継続して提供に資する資料の収集に努め、さまざまな要求に応える。

(2) 利用者が参加できる図書館運営

学習室の運営、やすらぎ空間づくりのための飲食コーナーの運営、癒し空間づくりのための花の植栽などの図書館における各種サービスや環境整備について、可能な限りボランティアによる運営ができるよう検討する。

(3) 職員が能力を最大限に生かせる環境づくり

職員の能力を最大限に生かし利用者の要望に応えるため、適正な職員数の確保を基本に正職員と嘱託職員の均衡に配慮した職員配置に加え、嘱託職員の待遇改善に努める。

なお、職員数や職員待遇などについては、熊本県内の他の市町村の事例を参考にしながら行うこととする。

7 市立図書館の蔵書について

(1) 蔵書数について

全国の公立図書館の内、貸出密度（住民一人当たりの貸出資料数）が上位の図書館の蔵書数を参考として、本市では住民一人当たり6冊の蔵書を目安とする。この数字を用いて、現在の市の人口約31,000人から算出すると、186,000冊となる。将来の公文書保存への対応を考慮し、市内4図書館合計の蔵書数として200,000冊を最終目標とする。

(2) 蔵書内容について

蔵書については、図書館サービスの基本となるものであり、多様化する利用者の要望と蔵書の構成を鑑みて計画的な収集を行う。児童図書を多く望む声や、雑誌や視聴覚資料の充実を望む声などがあることから、今後も利用者のニーズを把握しながら適切な蔵書収集に努める。

(3) 蔵書の閲覧方式について

開架資料と閉架資料の割合は、開架書架に多くの図書資料がある方が利用者にとって利便性が向上すると考え、なるべく開架書架を多くするように努める。

8 新図書館の建設について

4館合計で一定規模の収蔵能力を確保するためには、新図書館を建設する必要がある。

4館の内、森記念図書館はサービス人口に対する収蔵能力が一番低く、ページ2の表にもあるように、収蔵能力を超えた蔵書を所蔵しているため、閉架書庫を有効に利用できず利用者に不便を強いている。また、建物自体も建設後34年が経過し老朽化が著しいことに加え、玄関が2階にあるなど構造や場所の関係で不便であることから、利用者から建替えの要望も寄せられていた。このようなことから、新図書館は大矢野地区に建設することとする。

(1) 施設形態について

森記念図書館を除く既存の図書館の現時点での収蔵能力は76,000冊である。4館合計の蔵書数の目安を200,000冊とした場合、新図書館は124,000冊の収蔵能力が必要となる。また、従来保持していなかった多目的ホールや歴史資料展示室、おもちゃ図書館などの機能を持つ図書館について検討する。

(2) スペースについて

新図書館は、充実した図書館サービスの提供と利用者が使いやすく快適に過ごせる空間を創出するため、次のようなスペースの確保を検討する。

部門	備考
開架スペース（一般）	一般図書、レファレンス資料、地域資料、行政資料、新聞雑誌、AV資料、視聴覚コーナー、調査研究コーナー、閲覧座席、サービスカウンターなど
開架スペース（児童）	児童図書コーナー、読書席、おはなしの部屋、おもちゃの部屋など
閉架書庫	固定式書架、密集書架
移動図書館	車庫スペース、作業スペース、BM書架スペース
集会・研修スペース	学習ルーム、多目的ホール、ボランティア活動スペースなど
交流・展示スペース	ギャラリー、歴史資料展示スペース、ラウンジ、飲食コーナーなど
管理・運営スペース	事務室、作業室、救護室、設備・機械室など
共用スペース	玄関、廊下、トイレ、洗面所、授乳室など

(3) 建設計画について

図書館建設には多額の費用が必要となるほか、建設後は施設の運営費（維持費や資料費など）が必要となる。

そのため、建設においては財政負担軽減のため助成制度を活用し、運営面においても過度な財政負担が伴わないよう十分に検討する。

9 新設図書館の建設場所について

(1) 望ましい立地条件について

公立図書館は、利用者に対して知る権利を平等に保障している。図書館を新たに設置する場合、その利用について時間的、地理的要件を勘案し、利用者が十分な図書館サービスを楽しむよう特段の配慮が必要である。よって新図書館建設の望ましい立地条件としては次のことが上げられる。

- ①利用者が気軽に立ち寄れ、わかりやすい場所であること。
- ②交通アクセスが便利で安全なところ。
- ③広い駐車場が確保できるところ。
- ④住民の生活動線から近いところであること。(地域の人たちが集まりやすい場所)
- ⑤発展が期待される将来性のあるところ。

(2) 建設場所の候補地

上記(1)の①～⑤の条件をおおむね満たすと考えられる次の場所を候補地とした。

- ・大矢野農山村広場公園付近。
- ・上天草市役所大矢野庁舎周辺。

10 既存の図書館について

既存の図書館については、現在の機能を保持することを基本として、全図書館が連携し、さらなる図書館サービスの向上に努める。

また、姫戸図書館及び龍ヶ岳図書館については、支所の移転計画などに併せて、利便性を損なわないよう整備を検討する。